

アドバンスト・リベラルアーツ(ALA)科目群 カリキュラム・ポリシー

同志社大学の建学の精神である「良心教育」のもとに、「キリスト教主義」「自由主義(自治自立の精神)」「国際主義」という三つの教育理念に基づき、定められた「高い倫理観と豊かな人間性の育成」「自治自立の精神と行動力の育成」「生涯を通じて社会に貢献する精神と行動力の育成」「国際社会に対応できる語学力と行動力の育成」「寛容な精神の育成」という五つの教育目標を具体化する大学院教育の一環としてアドバンスト・リベラルアーツ科目群(以下「ALA 科目群」)を開設する。

ALA 科目群は、大学院で培った専門的な学びと分野横断的な学びを融合させることで、文理を超えて物事を捉える視点や、柔軟な創造力・提案力を備えた人材を育成することを目的とする。また、「良心を手腕に運用する人物」の育成を基盤とし、世界で求められる「社会イノベーター」の養成を目指し、「研究科横断副専攻プログラム Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム(Comm 5.0)提供科目」、「グローバル・リソース・マネジメント(GRM)提供科目」、「「次の環境」研究センター提供科目(「次の環境」協創コース)」「サイエンスコミュニケーションコース(SC)提供科目」、その他の高等研究教育院設置科目により形成する。

ALA 科目群での学びを通して、多様な学問領域の基礎的知識を理解し、それらを統合的に活用することで、複雑な社会課題に対して分野横断的な視点からアプローチできる知識・技能を身につけることを目標とする。また、社会の諸課題を俯瞰的に捉え、複数の専門知を組み合わせる論理的に思考し、課題の本質を見極めた上で、他者と議論しながら明確かつ説得力のある表現を行う思考力・判断力・表現力を養うことを目指す。さらに、自ら課題を発見し、他者と協働しながらその解決に向けて主体的に行動する姿勢を涵養するとともに、異なる文化や価値観を尊重し、多様な視点を受け入れながら柔軟に対応できる主体性・多様性・協働性を身に着けることを到達目標とする。

大学院修了要件における履修単位数あるいは必修科目数等については、各研究科のカリキュラム・ポリシーに従って別途定める。

■AI・データサイエンスを活用し、CommunicationとCommunityの融合による次世代社会の構築を担うComm 5.0 アーキテクトの育成を目的として、**「Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻」**を設置する。本プログラムでは、ヒトとモノの関係性を再構築し、分断を乗り越えた社会の創造を目指す。科学的思考と倫理を学ぶ「同志社大学高等教養科目」、AI・データサイエンスの基盤技術を習得する「AI・データサイエンス科目」、ヒトの情報取得技術を学ぶ「ヒトを見守る科目」、社会課題をデータから探る「社会を支える科目」、技術の社会実装を考察する「社会に寄り添う科目」、そして実践的な共同研究を行う「ミッション研究」で構成する。本プログラムの科目の一部をALA科目群に提供する。

本プログラムの修了における履修単位数あるいは必修科目数、外部試験や論文投稿・学会発表等の要件については、本プログラムのカリキュラム・ポリシーに従って別途定める。

■社会の課題に対応するために科学を実践的に応用し、他者と共に問題を克服する「知恵」と、知識や情報を活用して事象を読み解き、主体的に判断できる高度なリテラシーを獲得するため、「グローバル・リソース・マネジメント(GRM)」を設置する。本コースワークでは、「資源」を天然資源に限らず、人的資源や社会関連資本などを含めて幅広く捉え、それらを適正に配分することにより、持続可能で平和な世界を支える社会基盤を整備し、他者と協働して課題解決に取り組む実行力を有する人材を育成する。人間関係構築および組織・プロジェクト運営に関するスキルを含む「技術」を涵養するとともに、その「技術」を社会に資するための良心に基づく判断および新しい価値を創出する知恵を備えるため、異なる専門分野や文化背景を有する他者と共修する。現場の課題に触れながら実践的な知識と協働力を育成し、文理の枠を超えた知識を幅広く学ぶことで、多角的視野、汎用性および応用力に富んだ能力を修得することを求める。

■文理融合による新たな環境課題へのアプローチと、大学・企業の壁を越えた協創体制の構築を目的として、「「次の環境」協創コース」を設置する。本コースワークでは、自然科学と人文・社会科学の融合を通じて、従来の環境概念を超えた「次の環境」の提案と実現を目指す。環境倫理や思想を扱う「基礎科目」、地域文化や制度の違いを学ぶ「地域環境科目」、技術と社会の関係を探る「環境技術科目」、未来社会のプロトタイプを構築する「フューチャーデザイン科目」、そして実践的な研究提案を行う「ミッション研究」で構成する。修了要件としては、環境を多角的に捉え、技術と社会の関係を理解し、俯瞰力・総合力・創造力・提案力を備えた人物として、良心を支柱に未来社会の在り方を主体的に示すことを求める。

■科学技術と社会の間に立ち、対話を通じて相互理解を促進する高度なコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的として、「サイエンスコミュニケーションコース(SC)」を設置する。現代社会では、科学技術が生活の隅々にまで浸透する一方で、情報の氾濫や価値観の分断が進み、科学と社会の関係性が複雑化している。こうした状況において、科学的知見を社会に伝え、対話を通じて人々の判断や行動を支援する「サイエンスコミュニケーター」の役割がますます重要となっている。本コースワークは、同志社大学が学部横断型で展開してきた「サイエンスコミュニケーター養成副専攻」の理念と実績を大学院レベルに発展させたものであり、科学技術と社会の接点に立つ高度専門人材の育成を目指す。

科学技術の基礎知識と社会的背景といった「理論」を学ぶ「サイエンスリテラシー科目」と、科学的内容をわかりやすく伝える技術を「実践」して学ぶ「ワークショップ科目」により、プログラムを構成する。多様な立場の人々との対話を通じて、科学的情報を媒介とした相互理解を促進する力を養い、社会課題に対して科学的視点から提案を行うことができるようになること、また、学内外の専門家との協働を通じて、企画・実施・発信までを担う実践的な活動を経験し、科学と社会の関係を倫理的かつ創造的に再構築する姿勢を身につけていることを求める。